



NEWS

2013 No.265

4月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

リターナブル梱包材の第3弾

エンジン用エココンポ、4月下旬から運用を開始 環境に良い取り組みを積極的に広げます

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合はリターナブル梱包材の第3弾、エンジン用エココンポを開発しました。同エココンポが組合員の手元に届くのを待って5月1日より本格運用を始めます。リユース部品の環境性能をさらに高めることを追求し、物流面、パッケージにも工夫を凝らしてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

NGP協同組合は自動車リサイクル部品の環境性能をさらに高めるために、リターナブル梱包材を開発、積極的に利用を進めることで輸送にかかわる二酸化炭素(CO₂)排出削減に努めてきました。

第1弾は2009年4月に導入したドア用、次いで2011年2月にバンパー用のエココンポを開発しました。ドア用はフェンダーも兼用、大・小2つのバンパー用はマフラーなどの長尺ものの梱包にも活用しています。

これに続く第3弾として開発を進めてきたのが、エンジン用エココンポです。NGP協同組合は、使い捨て木材パレットをリターナブル化したいとの構想を早くから描いておりましたが、コストと耐久性の兼ね合いなど課題をクリアするために繰り返し試作、テストを行いようやく完成に至ったものです。

従来の木材パレットは使い捨てで、お届け先の修理工場様から「廃棄が困難」というご指摘を受けておりました。またエンジンの固定に番線(剛性ハリガネ)を使用してい

たために荷ほどきに手間がかかるという問題もあったと思います。

これらを解決するために開発したエンジン用エココンポはパレットを樹脂(ポリエチレン)製とし、番線ではなくラチェット式ベルトで固定するようにしています。エンジンだけでなく、ミッションも兼用になります。ただし荷姿は従来同様にダンボールで覆いをかぶせ、PPバンドで結束しています。PPバンドとエンジンを固定しているベルトの材質、見かけはまったく違います。内部のベルトは切断しないようご注意ください。

リターナブル梱包材の普及は修理工場の皆様のご支持・ご協力を得なければ進めることができません。ドア/フェンダー用、バンパー用同様に修理工場の皆様には商品到着後にリターナブル梱包材の折りたたみ作業や返却処理などのお手間を取らせることとなりますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

またこれまで容器の返却はJP(日本郵便)の集荷システムを利用していましたが、エンジン用エココンポの空パレット回収は西濃運輸の「お帰り便」を利用することも可能にしています。従来通り、お客様に回収運賃の負担はありません。JPが西濃運輸、どちらかが回収にうかがいます。それまでの間、保管しておいてください。

木材パレットをリターナブル梱包材に置き換えた際のCO₂削減効果は、月2回、3年間使用したことで試算すると、輸送1回当たり従来比で約3割削減となります。過去のエココンポに比べると削減効果は小さいですが、それでもこの積み上げが大事なことだとNGP協同組合は考えます。

また、梱包資材は年々値上がりしていますが、エココンポの導入拡大などを検討しながら総合的に物流費を削減し、修理工場の皆様が利用しやすいリサイクル部品の提供に努めてまいります。温かい目で応援してください。



新開発したエンジン用樹脂パレット



エンジンを搭載ベルトで固定



配達時の荷姿に大きな変化なし

納品書などに同封のリーフレットに注目

取り扱いをご確認下さい!

エンジン用エココンポの運用開始にあたり、開梱方法などを表記したリーフレットで注意喚起をいたします。事前告知として、リーフレットを納品書などに同封しています。さらに、リターンブルで納品する場合は、詳しい注意書を貼付いたしますので、ご確認ください。開梱方法などの取り扱いが不明な時は、取引のあるNGP組合員にご連絡を下さい。

エンジン用エココンポで届いた荷物はカバーしているダンボールとPPベルトはともかく、エンジン等を固定しているベルトは絶対に切断しないでください。

ベルトを引き出すレバーの元に「UNLOCK」スイッチがあります。まずこれを下に押し下げてレバーが動く状態にします。ロックを外した後はレバーを上いっぱいに向けて、ベルトを伸ばしてフックを外します。これで開梱終了。樹脂パレットをお預かりいただく間の荷姿もリーフレットに写真で載せてあります。写真のようにフックを結合し、ベルトを収めてください。

取り扱い方法はインターネットの「ユーチューブ」サイト (<http://youtu.be/24gdxHymdiM>) にて動画で公開しています。参考にしてください。

繰り返し使用するリターンブル梱包材は資源の有効利用につながり、CO₂と廃棄物の削減に大きく貢献できます。自動車リユース部品はもともとエコ商品、梱包材を使い捨てからリターンブルへ切り替えることはリユース部品のエコ性能をさらに高めます。

NGP協同組合で2009年4月に

運用を開始したドア用は、現在923個が運用中で、今年2月末までに5万回の利用を超えました。また第2弾のバンパー用は1067個が運用中で、利用回数は3万1000回に達しています。ふたつ合わせると8万回を超える実績となっています。今回

開梱方法並びに集荷時の荷姿

【お願い】 ベルトは絶対に切断しないでください!

レバーの元にUNLOCKがありますので下に押し下してください。

LOCKを外した後は、レバーを上一杯に向けてください。

最後にベルトを伸ばし、フックを外します。

数日後に、西濃運輸もしくは、JP(日本郵便)が回収にお伺いいたしますので、写真の様にベルトを固定してください。

第3弾! リターンブル梱包材

CO₂排出削減の梱包材開発!

リターンブルエンジン用 (ミッション兼用)

本年4月より運用開始!

ドア・フェンダー用、バンパー用に続き、エンジン用エココンポの運用がスタート致します。リターンブル梱包材は繰り返し使用でき、CO₂と廃棄物削減に大きく貢献できると考えられます。

リターンブル梱包材 (オートパーツ)

中身も箱もECO主義!自動車中古部品はエコ商品。物流もエコにしたい! 梱包材料(段ボール箱)を使い捨てからリターンブルへ

2009年3月より運用開始、お客様のご理解とご協力をいただき、使用回数約8万回となりました。これからも第4弾・第5弾とリターンブル梱包材を開発・運用いたします。

(ドア・フェンダー用梱包材) (バンパー用梱包材)

NGP

加わるエンジン用は全国518個で運用を始めます。

リターンブル梱包材は昨今の物流費高騰の余波により、同業他団体もその利用に関心を高めています。NGP協同組合は一層の連携を深め、協調してリターンブル梱包材の利用の輪を広げて行きたいと考えています。ご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

NGP今月のCO₂削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP 平成25年2月: **6,541 t**

NGP 1月からの累計: **12,917 t** (全12団体 1月からの累計 **22,864 t**)

リターンブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP 平成25年2月: **26.2 t**

NGP 1月からの累計: **51.6 t**

* NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

* リターンブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

自動車サービス市場もシニア攻略が成長のカギ!

夫婦でドライブ旅行など シニアはマイカーを積極的利用



シニア世代のマイカー利用が積極的なようです。

旅行大手・JTBグループの調査機関、JTB総合研究所が実施した「ドライブ旅行に関するアンケート」で、シニア世代が他の年代に比べてドライブ旅行の頻度が高く、その際の移動時間も長かったことがわかりました。

JTB総研のアンケートは今年2月末に東京、大阪、名古屋圏に居住する18歳以上の男女4908人を対象にインターネットで行いました。

それによると、過去1年間にドライブ旅行に出かけた人は55.2%で、年齢区分では1941～1945年生まれ(67～71歳)が最も高く64.7%が出かけたと答えました。旅行回数もこの年代は多く、1941～1945年生まれは年3回以上ドライブ旅行に出かけた人が37.4%でした。一方、1990～1995年生まれ(17～22歳)は49.0%

にとどまっています。年齢が高くなるほどドライブ旅行の回数は増加する傾向でした。

またドライブ旅行の移動時間も年齢が高いほど長くなります。1990～1995年生まれでは78.5%が移動時間「3～4時間」以下でしたが、1941～1945年生まれでは「3～4時間」以下は44.9%、半数以上がそれ以上の移動時間でドライブ旅行をしていました。積極的に長距離ドライブを楽しんでいるシニア世代は多そうです。

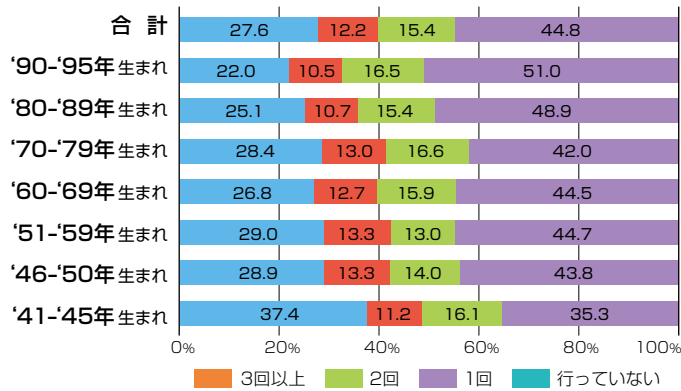
レンタカー利用のドライブ経験は年齢による違いはないようで、全体の46.3%がレンタカーは未経験でした。ただし、若年層は自宅近くからレンタカーを借りてドライブした経験が他の世代に比べて高くなっています。積極的に長距離ドライブを楽しむシニア世代に対して、若年層は車を持たず、出かけるときには自宅近くでレンタカーを借り、それほど長距離ドライブもしないというスタイル

のようです。

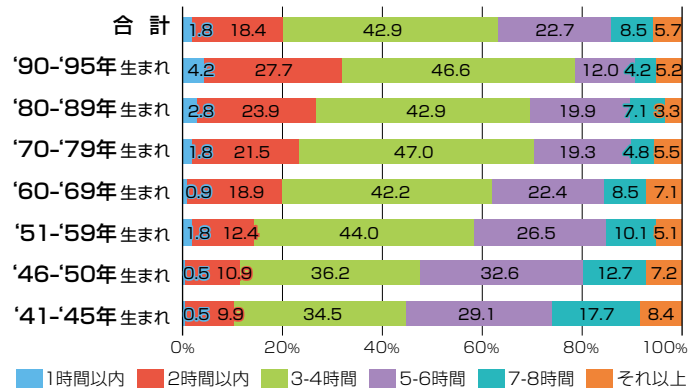
シニア世代が積極的に車を利用している実態は、運転免許の保有構造からも見て取ることができます。JTB総研は2001年と2011年の運転免許保有率を比較し、35歳以上の女性の保有率が増加していることが顕著で、とりわけ55歳以上60代までで10年間に20ポイント以上保有率が増加していることからシニア世代のドライブ旅行が積極化していると予測、今回の調査に至りました。

実際、シニア世代は夫婦2人でドライブ旅行に出かける頻度は高く、その場合、主に運転するのは男性で、妻を交代要員に長距離のドライブ旅行を楽しんでいるようで、そうした様子も今回のアンケート調査で浮かび上がりました。こうした実態を見ると、シニア世代のドライバーを顧客としてどう取り込むか、整備工場経営の視点からは欠かせない重要なテーマと言えます。

この1年間のドライブ旅行の実施回数



この1年間のドライブ旅行の平均的な移動時間



尿素SCRシステム性能低下問題

国交省、環境省の検討会が中間報告

大型トラックなどディーゼル重量車の排ガス浄化に使用する「尿素SCRシステム」の性能低下問題で、国土交通省と環境省が合同で設置した「排ガス後処理装置検討会」は、同システム搭載車の一部で窒素酸化物(NOx)排出量が規制値を上回っていることを確認し、劣化原因の解明をさらに進めるとともに2013年度中に排出ガス試験法の見直し案をとりまとめるなどとした中間報告をまとめました。

尿素SCRはディーゼル排ガスに尿素を噴

霧し、NOx排出を低減する後処理装置です。性能低下の問題は、環境省の中央環境委員会が排ガス規制に関する答申をまとめる過程で2010年に行った調査で明らかになりました。原因解明と対策を進めるために国土交通省、環境省による検討会が昨年10月に設けられ、非公開で検討を進めてきたものです。

中間報告は性能低下の原因について、未燃炭化水素(HC)が触媒表面に付着する「HC被毒」にあるとしています。HC被毒によって性能が低下した触媒も、温度を上げ

て付着した未燃HCを除去すれば、性能が回復するとしています。

尿素SCRシステムは2005年に実施した「新長期規制」に対応するため、大型メーカー2社が導入しました。その後、2009年に「ポスト新長期規制」が実施されましたが、ポスト新長期規制ではディーゼル微粒子除去装置(DPF)が全ての車両に導入されたため、DPFが粒子状物質(PM)を燃焼した際の発熱でHC被毒が解消していると、検討会は推定しています。

第23回NGP中級研修会

リーダーシップとは何かを考え抜いた5日間 活力を胸にNGP発展に向けて新たな誓い

第23回NGP中級研修会が3月11～15日、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターで開催されました。研修会には30名が参加し、生産、フロント、営業に分かれてリーダーとしての役割、業務姿勢、踏み込んだ技術知識を学びました。

「今回の研修は今の自分の役割で非常に役立つ内容ばかりで、重要な時間、内容となりました。今回学んだことを社内の実務に活かし、売上アップ、時代に打ち勝っていく強固なチーム作りに励み、自社とNGPグループの発展につなげていきます」(桃太郎部品、稲葉卓磨さん)、「話がうまく部下を元気にできる人。難しい話になって部下が困る人。いろいろな人がいて、私自身感心することばかりでした。研修に参加したみんなが思ったことだと思いますが、わかりやすく、また明るく楽しく、やる気にさ

せるリーダーになります」(オートリサイクルナカシマ、高倉大樹さん)などとリーダーとしての自覚に磨きをかけました。

部下との接し方に悩む人は多いようです。アール・トーヨーの近藤裕明さんは「人をまとめるということはどういうことか。そのためには何が必要か。普段考える機会の少ないことを勉強することができ、とてもうれしく思いました」。またライズコーポレーションの石元啓二さんは「行動や言葉を通じて部下に伝えることの難しさを改めて感じました。目標設定では、ただ上から言われた数字を部下に伝えるだけでなく、

なぜその数字が必要なのかも伝え、どうすればそれを達成でき、そのために何をすることを学ぶことができました」と話していました。

「フロント業務としてまず確実性、次にスピードを上げ、今回習った“無駄をなくす・減らす・楽にする”ことを実践し、月間売上目標を達成します」(テラダパーツ、磯村俊宏さん)。「作業効率を上げるため、自分の作業ツールを整理整頓し、ストライクゾーンで作業できる環境を作ります」(サンアール、三森力さん)とひと回り成長した視線で決意表明しています。



生産は「基礎ができていない」と講師が一喝



経理の数字を叩き込むことはフロントの基本



マンツーマンで密度の高い営業研修

IAAE 2013に出展

エンジン用リターナブル梱包材などを展示



エコひろばなどをパネル展示したNGPブース

3月13～15日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された「第11回国際オートアフターマーケットEXPO(IAAE)2013」にNGP協同組合は出展し、5月か

ら本格的に動き出すエンジン用リターナブル梱包材の展示などを行いました。さらにNGPエコひろばやベルマーク運動への取り組みについてパネル展示しました。

IAAEは自動車アフターマーケットの総合ショーで、自動車の販売・整備のシステム、修理用機材や用品など幅広い展示が行われます。自動車リサイクル部品関係ではNGP協同組合とともにジャパンリビルト、ウラワ産業、イトーパーツ、ターボテクノサービスのリビルト部品メーカー、日本リサイクル部品協議会などの業界団体がブースを設けました。

整備事業関連などの事業者が来場者の中心で、アフターマーケットでは超ハイテン材

に対応した修理技術に関心が高く、その実演も行われました。

また、第4回国際自動車素材・加工展、第12回パーキング・ジャパン2013、第4回国際自動車通信技術展、第2回モバイルITアジアとの同時開催となっています。素材加工展では、ホンダが軽量化のために開発した鉄とアルミを複合したエンジンサブフレームの展示がありました。修理では、サブフレームごと交換するとのことでしたが、リサイクル関係者ではこうした複合材をリサイクル工程でどのように処理するかが、話題になりました。

主催者の発表では、IAAEとともに同時開催したショーを合わせた3日間の延べ来場者は3万118人ということです。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp